

令和3年度学校自己評価シート（鴻巣市立吹上中学校）

目指す学校像	生徒一人一人が 色とりどりの花を咲かせる 元気な学校 ～ 一体感の中で一人一人を伸ばす吹中教育 ～
--------	--

重 点 目 標	1 ときめきと感動のある学校 【学力向上】
	2 信頼して相談できる学校 【開かれた学校づくり】
	3 安全第一・健康優先の学校 【健康・安全】

達成度	A	ほぼ達成 （8割以上）
	B	概ね達成 （6割以上）
	C	変化の兆し （4割以上）
	D	不十分 （4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	当該学校側	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
令 和 3 年 度 目 標					令 和 3 年 度 評 価 （ 3 月 1 日 現 在 ）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	全体的に落ち着いた生活態度で、学校全体に活気がある。授業中の挙手・発言も活発な生徒が多く、個別・共同の作業にも熱心に取り組んでいる。今年度は開校75年目にあたるのを節目として、より前向きな姿勢を働きかけている。 【課題】 学習が深い理解にまで至らない生徒や、特別な配慮を要する生徒、また自分の居場所が見つけられない生徒もおり、個に応じた指導が求められる。	○わかる・できる・出番のある授業づくり ○学びに向かうための環境づくり	①誰にでもわかるユニバーサルデザインを意識した授業 ②将来に向けて学習を広げ、深めるためのICT活用推進 ③少人数指導の拡大や日常的な褒める指導による個々の生徒の学習意欲の喚起 ①「当たり前への挑戦」を合言葉にした見えない学力の伸長 ②生活ノートや毎月のアンケートによる悩みごとの把握と、寄り添う指導 ③清掃や作品展示による心と体の美化 ④学校生活の常態化	①生徒アンケート「丁寧でわかりやすい指導」85%（←81.4%） ②学校自己評価「ICTの活用」4.5 ③学校自己評価「意欲を引き出す授業」4.6（←4.5） ①自制心・計画性・粘り強さ等は向上したか。 ②学校自己評価「相談へのきめ細やかな対応」4.6（←4.6） ③保護者アンケート「環境美化」4.5（←4.4）	①生徒アンケートは84%。教材や板書の工夫、数学の少人数指導、ICT利用増加も向上の一因と考えられる。 ②③ICT活用は3.8、意欲を引き出す授業は4.3にとどまった。指導に自信を持っていない状況にある。 ①「当たり前への挑戦」の浸透が、生徒の言動から感じられる。自学ノートを継続実施。 ②評価結果は4.5。相談に組織的即時対応ができています。 ③アンケート結果は4.5。花壇整備や明るい教室環境づくりを、年間を通じて推進。	B A	【課題】 ○全体的に授業中の生徒の発言等は活発で、真剣に取り組んでいるが、理解と思考の深い学びを実現したい。 ○家庭学習の予習・復習と授業とを関係づけた好循環で学力向上につなげたい。 【改善策】 ○「個に応じた指導」から、より生徒の立場に立った「個別最適な学び」への授業観の転換 ○ICT・書く指導の充実 ○自学ノートの継続と学習計画づくりの丁寧な指導
2	生徒会は、地域との交流を活動目標の一つに掲げているが、コロナ禍により地域行事やイベントの多くが中止となり、行事参加やボランティアの機会が減っている。学校も公開行事や小中連携事業を縮小したり、参観者の制限をしている。 【課題】 人の行き来が制約される分、確実に学校情報を伝えることで学校への理解促進につなげる必要がある。意見や要望への適切な対応も信頼構築のカギとなる。	○新鮮な学校情報の積極的発信 ○要望や相談への親身な対応	①各種たよりや駅掲示による教育活動への理解促進 ②配信メールや学校HPによる欲しい情報の事前提供 ③学区内小学校への「吹上中紹介コーナー」設置による小中連携推進 ①情報交換の場の確実な設定 学級懇談・三者面談・部活動保護者会・PTA運営委員会・学校応援団会議・民生委員懇談会等 ②さわやか相談室や関係機関と連携した学校生活の支援 ③来校者や電話への親切・丁寧で待たせない応接	①学校だより等は、毎月定期的に発行できたか。 ②配信メールやHPは、有効・適切な内容だったか。 ③小学校への広報は、有効・適切な内容だったか。 ①機会を捉えて家庭・地域と連携強化ができたか。 ②生徒指導部会・教育相談部会が、校内外の調整役となつて学校生活への適応が図れたか。 ③学校自己評価「TPOに合った服装・態度」4.6（←4.5）	①学校だより等、各種たよりは年間を通して定期発行。 ②HP閲覧数が飛躍的に増加。緊急の場合はメールを活用。 ③小学校向けの学校紹介掲示を学期ごとに作成。概ね好評。駅掲示の一部にも活用。 ①授業参観は実施できなかったが、学級懇談・PTA運営委員会・民生委員懇談会等は計画通り情報交換の場となった ②生徒指導部会・教育相談部会が毎週開催され、機能した。 ③評価結果は4.6に向上。場に応じた服装、来校者への丁寧な対応に配慮している。	A A	【課題】 ○学校情報の発信は量的に向上したものの、通知時期や学校公開について改善の要望を頂戴している。 ○PTAや学校応援団、関係機関の活動や学校との連携について理解を広げたい。 【改善策】 ○家庭・地域あて文書等の確実なダブルチェックと、予定変更の際の早めの連絡 ○社会的状況を踏まえた学校公開の検討 ○学校だよりやHPを活用した関係機関との連携紹介
3	昨年度に続き、マスク・黙食等、新型コロナウイルスの感染を防止しながら教育活動を継続している。プール指導は中止とされた。安全講座については、外部講師の要請が例年どおりに進まない状況がある。 【課題】 感染症対策への危機感が薄れないよう、家庭の協力の下、新しい生活様式を一層根付かせる必要がある。また、事故の未然防止のため、想定を広げた個別指導と全体指導が欠かせない。	○感染症・熱中症対策の継続実施 ○生徒事故の防止と迅速な初期対応	①最新の通知・マニュアルをもとにした校内感染の防止指導 ②生徒会活動を通じた自主的な健康維持の育成 ③家庭と連携した健康管理・毎朝の検温と健康チェック・保護者会・三者面談の活用 ①毎月、安全点検と迅速な初期対応（危険箇所明示・自力修繕・修理申請） ②計画的な避難訓練、登校指導と安全講座の工夫 ③事故発生時の職員・関係機関が連携した救急体制	①感染防止策は、共通理解・共通実践できたか。 ②進んで自らの身を守る態度が身に付いたか。 ③学校自己評価「家庭との連絡」4.6（←4.5） ①毎月、点検後3日以内に初期対応を行えたか。 ②時季に応じたテーマを設定し、全体への安全指導が実施できたか。 ③学校自己評価「生徒事故への対応」4.7（←4.7）	①熱中症対策は、学校保健委員会の学習を各部で実践。感染症対策は、各場面で指導。 ②加湿器の活用・朝の検温・換気等は、生徒会活動で浸透。 ③評価結果は4.4に低下。保護者アンケート同様、相互に連携の実感が十分持たない。 ①3日ルールが定着。日常的な点検と自前の修繕も実施。 ②避難訓練や職員安全メッセージのテーマにさらに工夫必要。 ③評価結果は4.5に低下。躊躇ない救急車の要請は行えたが、下校時の交通マナーについて意見をいただいた。	A B	【課題】 ○コロナ禍が収束するまで、感染症対策を緩めることができない。 ○生徒自らが、健康・安全についての関心と実践力を高める必要がある。 【改善策】 ○重点を絞った感染症対策の徹底と衛生物品の有効活用 ○体験的・効果的な安全講座や避難訓練の一層の工夫 ○自ら危険回避能力を高める生徒会活動等の充実 ○家庭や関係機関と連携した事故の未然防止と初期対応

・吹上中の現状から概ね妥当な評価といえ、胸を張って公表できる評価結果である。ICTに関する数値が低めだが、生徒アンケートの結果を見ると指導は十分であると思われる。

・小学校では、ICTをかなり使いこなしている。小学校で身に付けた力を、中学校でさらに伸ばすことが期待される。高校のPC支給は学校ごとの対応となり、取組を急ぎたい。

・生徒は理解度に差があり、1年次から重点的に指導してほしい。

・素直で打てば響く生徒たちではあるが、おとなしくて真面目ということは覇気が乏しいともいえる。引き続き生徒のやる気を育ててほしい。

・学校情報を地域に広く伝えることが大切。それによって、子供たちを見守ろうとする意識が高まる。

・学校だよりで学校の取組がよくわかる。しかし一方で、生徒の校内の様子がよくわからないとの声もある。今後とも、学校関係者がPTAや地域の活動の中で学校や生徒の活動状況を伝えていきたい。

・HPのアクセス数が1日千件超えもあったとのこと。生徒・保護者だけでなく、校外からも注目を集める実践が行われていることがわかる。

・毎朝、登校途中の生徒と交わす挨拶が、明るく元気が良い。日頃の地域密着の表れといえる。

・不注意から大事故につながるため、安全第一は極めて重要。安全対策にやり過ぎはないのだから、生徒の状況を見ながら策を講じてほしい。

・Withコロナ時代は試行錯誤が必要。多くの対策を取りながら教育活動を通常の形に近づけていって欲しい。

・感染症対策をしながら、行事の継続実施がなされている。「学校生活が楽しい。」との声も聞いており、確実に生徒の力となっている。地域の行事も、いったん中止すると再興は難しい。次につなげることが大切。

・防災において、中学生は高齢者を助ける立場になる。避難するのに加えて救護の訓練も必要ではないか。

・教職員の健康維持にも留意願いたい。

